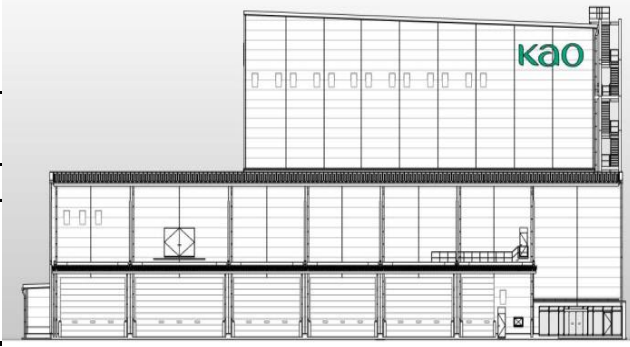


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)KTS Project 製品倉庫棟	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊橋市明海町31-1.4-37.4-48.4-51.4-52.4-57.4-58.4-59.4-60.4-61	構造	S造
用途地域	工業専用・防火指定なし	平均居住人員	3人
気候区分	7地域	年間使用時間	2,912時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年12月 予定	評価の実施日	2021年10月14日
敷地面積	50,468 m ²	作成者	小野原 大悟
建築面積	7,204 m ²	確認日	2021年10月27日
延床面積	8,836 m ²	確認者	小野原 大悟



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	81%
③上記+②以外の	81%
④上記+	81%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.4**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 4.0**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">67.3 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	67.3 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	67.3 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">3.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音			-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	3.0	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	-	
1.3 吸音			-	-	-	-	3.0	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-	-	
1 室温			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 外皮性能			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.3 照度			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.2 換気			-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.5	3.4	0.52	-	-	-	3.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	4.2	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	30年以上	-	5.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		20年以上	-	5.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバニウムダクト採用	-	4.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	-	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		キュービクル25年・浄化槽30年	-	4.0	0.23	-	-	-	-	
2.4 信頼性			0.1	3.4	0.19	-	-	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
3 電気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②	耐震クラスA	3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		精密機器の地下設置なし	3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.4	4.6	0.48	-	-	-	4.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	3.9m以上	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1以下	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり		4500N/m ² 以上	3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	4.1	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性	更新に対応したルートの確保。かつ更新修繕時に建物機能が維持できる	3.0	5.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースが計画的に確保されている	3.0	4.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率87.1%	-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.59	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.59	3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.5	0.20	-	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			1.0	3.5	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制	エネルギー消費量の目標値が計画され、建築主に提出されている	3.0	4.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		消音・節水器具の使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.7	0.63	-	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		グリーン購入法適応品:ビニル系床材エコマーク認定品:タイルカーペット 持続可能な森林から産出された木材の使用率100%	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自 躯体+軽鉄+仕上材	3.0	5.0	0.05	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法の対象物質を含有しない建材種別が4つ以上	3.0	5.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を含む断熱材は不使用	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			0.3	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器は不使用	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		主風向に対する見付面積比を40%以下とした	-	4.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.7	0.33	-	-	-	3.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	4.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自 現行の規制基準よりも騒音が大幅に抑えられている	-	5.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリスト及び広告物照明リストの過半を満たす	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	建物外壁の反射光の発生を低減させる取組みを行っている	-	4.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)KTS Project 製品倉庫棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:67.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	効率の良いLED照明を採用し、省エネルギー化に努めかつ環境負荷を低く抑えられる建築物となるような設計
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	空調・給排水配管の主要用途上位3種のうち、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用。節水型器具を採用している。階高3.9m以上とゆとりある構内。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化指数30%以上と物流倉庫ながら出来る限りの緑地を施しており、それにより良好な景観を形成している
LR1 エネルギー	BPI=0.59・BEI=0.59
LR2 資源・マテリアル	節水型便器の採用。発泡剤を含む断熱材を使用しないなど環境に配慮している
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しない、夏季卓越風向に対する見付面積を小さくしたり、隣棟間隔等を工夫するなど敷地内だけでなく地域の温熱環境や熱的影響に配慮している
その他	